

## 報告

# インターネットを活用した園の取り組みの紹介 ～「子どもを笑顔に」をスローガンに～

児玉匡信

(学校法人児玉学園守山幼稚園 園長)



守山幼稚園の職員一同

守山幼稚園は、名古屋市守山区で「明るく 正しく 仲良く」をモットーとし、仏教的情操教育を実践している幼稚園です。新型コロナウイルスの感染拡大を受け、インターネットで、家庭向けの保育動画を配信しています。職員がアイデアを出し合い、家でできるお菓子作りや親子での遊びを紹介する取り組みが、園外からの反響も大きく、いくつかのメディアで取り上げられました。

## 活動を行うきっかけと経緯

2月27日に発表された学校自粛要請を受け、社会のインフラの1つとして休園措置は取らず「日本を止めない」「子どもを笑顔に」というスローガンで保育をする事を決めました。

3月の行事ができない中、雑談の中で「PTA 総会をオンラインで決議したら面白いかもね。」「お別れ会もできないなら先生たちで運動会して配信したいなあ。」「それ YouTube にあげたら話題になるかも。」なんて言葉が出たと思ったら、もう開会式の映像を職員が撮り始めていました。これまで Facebook や Instagram で子どもの様子を配信していて、この年明けから YouTube のチャンネルも作ったところだったので準備は整っていました。

4月10日に愛知県にも緊急事態宣言が発令され、それまで半数ほど来ていた園児が1割ほどとなり、職員から TikTok<sup>※1)</sup> が楽しいという話が出て、自分たちも見様見真似で始めたら、1日で何万回も再生さ

れるような事が起きました。そこから職員に火が点いたように、動画撮影や編集に余念が無くなりました。

そして動画配信だけでは子どもと関われないので、Zoom を使って朝の会やオンラインで保育をしたり、Instagram でヨガの先生や造形活動の先生とコラボレーションしてライブ配信をしました。特におやつ作りのライブ配信はとても好評でした。様々な分野の外部の方々はみな積極的に協力してくださいました。日頃から関係性を構築していたからこそできた事が多かったと思います。さらに夜はお母さんと先生たちでオンライン飲み会ができた事で、保護者と園のパートナーシップを再構築する事ができたように思います。

その他には学習塾に依頼して、小学生に絵本を読んでもらった様子を録画し、園児だけが見られる「おうちえん」<sup>※2)</sup> という動画配信サービスに動画をアップもしました。また、園児が登園しない間に、設計士に監修を受けながら室内にロフトをみんなで作ったりした事も、ピンチをチャンスに変えた出来事の一つでした。

## メディアとのやり取り

新聞やテレビなどたくさんの媒体から取材を受けました。また放送を見たいいくつかの園からも質問を受けました。以下に良く聞かれた質問とお答えした内容を紹介したいと思います。

Q. どうしてその活動をしようと思ったんですか。

「子どもを笑顔にしたかったんです。」

**Q. どうしてそんなにポジティブに活動できるのですか。**  
「こういう時だからこそ楽しむ事が大切だとみんなで共有したからです。」

**Q. 保護者からクレームはこないんですか。**  
「保護者には園児の肖像権の許可はもらってます。これまでも Facebook や YouTube で配信して我が子が写っていると遠くに住む祖父母に紹介できるという事でむしろ喜ばれています。」

**Q. 嫌がる職員はいなかったですか。**  
「誰もいませんでしたね。いたかもしれませんがやってみたら楽しかったので誰も文句は言わなかったですね。嫌な企画の時はきっと入らなかったのではないかな、と思います。」

**Q. どうやって職員にやらせたんですか。**  
「やらせていません。強要は1度もありません。やって欲しい企画があればお願いしました。」

**Q. アイディアは誰が出すんですか。**  
「全員が思いつきでしたが色々なアイディアを出して勝手にやってくれました。」

**Q. 企画の稟議はどうしてるんですか。**  
「ありません。職員会議も基本的にはしていませんが、会議をしていたらリスクばかり考えて結局やれていなかったと思います。だから勢いで全てやっていました。判断は世間がしてくれるので。」

**Q. 決定権は園長先生ですか。**  
「私は決定も把握もしきれませんでしたから一視聴者として楽しんでいました。」

**Q. どうしたら守山幼稚園のように動画配信を始められますか。**  
「きっとそういう事を問い続ける事が教育の本質なんじゃないかと思うんです。今日出た課題や疑問に対して明日解決される事なんてなかなかないので、それを問い続けて行動し続ける事が大切なんじゃないかと。答えになっていなくて申し訳ありません。」

これらの活動は、保護者のみならずたくさんの方に感謝されました。どうしてこういう事が起きているのか、推論ですが結論から先に言うと、私が園長になっ

たこの6年間はこういう日のために準備してきた日々だったのかなと思います。「守山幼稚園の先生たちはすごい。」「あの先生2年目の先生なの？ 5、6年目の先生かと思ったわ。」という言葉で、ここ数年よく言われるようになりました。園長としてその言葉は否定する理由もなかったもので、普段から有り難く受け取ってはいましたが、特段すごいとも思ってはいませんでした。しかし今回のコロナ禍での出来事はまさにその言葉を実感する機会となりました。

## 今後に向けて～園長としての思い～

オンラインでもできる保育を考えてみたら、みんなから色々なアイディアが出ていたので、これからもオンラインでもオフでもできる保育を模索しながらやっていきたいと考えています。職員みんなと振り返りながら、「こういう時にこんなに楽しめたんだから、これからどんな時代が来ても楽しめそうだね。」と話しています。

それでも5月6日までの自粛要請が5月末日まで延長された時は、不安な気持ちや正直な気持ちが職員間でたくさん出て、私も園長として揺らぎました。みんなの中で自分の中にあるモヤモヤを全て出し切りながら乗り越えていけた事は、これまで実践してきたコーチングの結果だったと思います。

実は守山幼稚園はホームページがないのですが、これらの配信やニュース、新聞報道によって、入園に関する問合せだけでなく途中入園、さらには就職希望の学生からの見学依頼の問合せも多くなりました。これもニューノーマルな選択の在り方なのかもしれないと思っています。

我々にとってこのコロナは日々の保育のカタチを見直すきっかけになり、保護者とも関係を綿密に取れるようになり、職員を1つにしてくれたとんでもないわんぱくな贈り物となりました。

注1) モバイル向けのショートムービープラットフォーム

注2) 園の先生が作る保育動画を、園児たちにクローズドな環境で配信できるシステム



TikTokへのリンク



YouTubeへのリンク